

ID No.	2069
研究課題名	DNA メチル化関連タンパクの個体発生・がん転移における制御機構の解析
研究代表者	中西 圭子(愛知県医療療育総合センター中央病院・総合診療部・部長)
研究組織 受入教員 研究分担者	中西 真(東京大学医科学研究所・教授) 城村 由和(東京大学医科学研究所・助教)
研究報告書	<p>EMT(上皮間葉転換)は、がん細胞の浸潤や転移に関わることが知られている。このEMTに関連するメチル化ヒストン結合タンパクのノックアウトマウスをCRISPR/Cas9システムを用いて作製したところ、ホモマウスでは胎生致死となり、出生しないことがわかった。さらに解析したところ、ホモマウスでは胎生9日齢で野生型に比較して体が小さく、somiteの形成が遅れていることがわかった。10塩基欠損と1塩基欠損(どちらも途中でstop codonが入る)の2種類のノックアウトマウス系統を樹立し解析したが、どちらの系統においても同様の結果であった。今後は、どのような機序で胎生致死となるのか、細胞増殖・癌化との関連などについて明らかにしていく予定である。</p>